

令和2年度 第2回 四万十町防災会議

議事録（要旨）

- ◆開会日時：令和3年3月25日（木）AM10:00～11:10
- ◆開催場所：四万十町役場 東庁舎1階 多目的大ホール
- ◆出席者：別紙名簿のとおり
- ◆司会：橋本 剛臣
- ◆議事録作成：芝野 富也

1.開 会

2.開会挨拶

防災会議 会長（町長）中尾博憲

3.協議事項

以下の協議事項について、各担当者より資料に添って説明。

(1) 四万十町地域防災計画の改定について（危機管理課）

事務局より今回の改定内容について、国の「防災基本計画（R2.5）」及び「高知県地域防災計画」等の修正内容を反映させる内容である旨を説明。

⇒委員からは特に意見等もなく、改定内容について全委員の承認を得た。

(2) 四万十町国土強靱化地域計画の策定について（危機管理課）

事務局より当計画の概要及び策定に係る今後のスケジュール等について説明。

⇒特に質問なし。

(3) 令和3年度高知県総合防災訓練・地域防災フェスティバルについて

（南海トラフ地震対策推進須崎地域本部）

佐々木チーフより総合防災訓練及び地域防災フェスティバルの概要について説明。

⇒特に質問なし。

(4) 四万十町災害ボランティアセンターについて（しまんと町社会福祉協議会）

尾崎総務地域課長より災害ボランティアセンターの概要及びこれまでの設置状況等について説明。

(武田委員)

災害ボランティアセンターの設置場所については、現在、本町のポケットパークが想定されているが、ここは過去に浸水したエリアでもあるので、(株)四万十交通のバス置き場の方が良いのではないかと。

(尾崎総務地域課長)

先程説明した設置場所についてはあくまで想定場所であり、これまでも役場西庁舎横の広場に設置したこともある。実際に設置する際には、その時の状況に応じて、町とも協議しながら臨機応変に設置場所を決定していくこととなる。

(5) その他

(武田委員)

先日、高知新聞で報道された津波避難タワーの階段等の付属施設の耐浪性について、興津地区の4つのタワーは問題ないかと。

(事務局)

興津地区には津波避難タワーが、1号棟から4号棟までの4棟整備されている。その内、1号棟から3号棟までの階段については、当初想定されていたレベル1想定津波にも耐えられるように設計されていたが、その後、新たにレベル2というレベル1以上に甚大な被害をもたらす新想定が公表されたことに伴い、階段については耐浪性があるとは言えない状況となった。

また、4号棟についても、レベル2の新想定公表後に県の設計基準に基づいて建設されたものであることから、タワー本体については、津波で倒壊しない強度が確保されているが、階段については基準が設けられていないため、明確に耐浪性があるとは言えない現状である。

ただし、何れのタワーにおいても、実際の避難行動においては、津波が襲来する前に利用するものであることから、何の問題もない。しかし、タワーへ緊急避難した後、場合によっては地上に下りられない状況も考えられるので、今後、誰もが安全に安心して地上に下りられる対策を検討していきたい。

(武田委員)

その方法として「避難はしご」なら、簡単に下りられるし、整備も容易であるので、消防署等とも連携して、整備を進めてもらいたい。

(事務局)

幾つかある対策として、当然「避難はしご」も選択肢の一つとして検討している。今後、安全性にも配慮したベストな方法を検討していきたい。

(武田委員)

災害時の水問題については、町としても様々な対策を講じていると思うが、地域にある井戸水の活用については検討しているか。

(事務局)

現在、町では「応急給水計画」に基づき、発災直後、1日目の全町民分の飲料水については、ペットボトルで備蓄しており、2日目以降については、浄水拠点より給水していく計画である。

井戸水の活用については、当然、その水質を検査する必要があるが、基本的には飲料用水としての利用ではなく、生活用水としての利用を考えている。

4.閉 会

5.閉会挨拶

四万十町 副町長 森 武士